

区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング

テーマ「プラスチックごみについて考えよう」

～美しい環境を次世代に残すために～

令和元年10月26日(土)

区では、日頃区政との接点が少ない区民の方々を含め、幅広い区民の方から、区の抱える行政課題についてのご意見を区長が直接伺う、「区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング」を実施しています。

今回は、区長が急な体調不良で欠席となり、代理として宇賀神副区長が出席して、「プラスチックごみ」について話し合いました。

◇プラスチックごみについて

副区長から一言

●海洋プラスチックごみと環境問題

最近、海洋プラスチックごみがウミガメやクジラ、海鳥等の消化器官から発見されるという事例が多数報告されています。

海に流れたプラスチックは、海洋中を漂っているうちに波や紫外線等によって分解され、5ミリ以下の微細で、化学物質を含んだマイクロプラスチックとなります。それを海中の生物がプランクトンと一緒に摂取し、さらに大きな海洋生物がそれを摂食するという食物連鎖によって、生態系に及ぼす影響がとてつもない懸念されています。また、船舶航行への障害や沿岸地域の住環境への影響などが想定されています。2050年には、海洋プラスチックの総重量が海にいる魚の総重量よりも多くなってしまっても言われ、世界では、2050年までに新たな海洋プラスチックの発生をゼロにする取組が始まっています。すべてのプラスチックごみが適正に処理されれば、海洋に流出するプラスチックは限りなく少なくなります。私たちに何ができるのか、区としてどのようなことができるのかを考え、実行していかなければならないと思います。



●ごみ処理の現状とリサイクル

家庭から出されるごみの処理は区市町村に責任があり、可燃ごみは清掃工場で焼却しています。ごみは杉並清掃工場のように自区内処理が原則とな

っていますが、現在6区に清掃工場がないため、23区共同で清掃工場を運営しています。

また、杉並区では、プラスチック製の容器包装などの分別に皆さまのご協力をいただき、資源としてリサイクルしています。焼却によって熱利用をする「サーマルリサイクル」をしている区もありますが、焼却すると二酸化炭素が発生し、焼却灰も多く発生することになります。焼却灰は東京湾の最終処分場に埋め立て処分となりますが、将来的には受け入れの限界もあります。そのため、経費はかかりますが、しっかりと分別して資源としてリサイクルしています。

●次の世代に持続可能な環境にやさしいまちを

杉並区の一人当たりのごみの総排出量は、23区の中で8年連続一番少ない状況です。しかし、私たちには、この取組を加速化させて、次の世代に持続可能な環境にやさしいまちを引き継いでいく責任があります。そして、1回使って捨ててしまうようなレジ袋や、プラスチックストローなどは貰わない、使えるものは何回でも使うというような、一人ひとりの意識、行動が重要であり、今日、こうしたことについて、皆さまのアイデア等をお聞かせいただければと思います。



◇環境課長から プラスチックごみに関する取組について説明

●海洋プラスチックごみの状況



世界でプラスチックごみは増え続け、1960年代からの50年間に約20倍に達しています。海洋プラスチックが問題となっていますが、その大半は、街で発生しています。街中でポイ捨てされたペットボトルやレジ袋が風で飛ばされて側溝や川に流れ込み、そして海に流れ着くというものです。日本から海洋流出しているプラスチックごみは累計約2~6万トン、重さではジャンボジェット機で125から300機超と言われ、川辺でペットボトルを回収している団体が、日本の川には約4,000万本のペットボトルが散乱していると推計しています。

●問題の解決に向けて

このような問題の解決に向けて、2015年に国連が持続可能な開発目標SDGsを採択しました。そこでは持続可能な生産消費形態の確保や海洋資源の保全等が規定されています。今年6月に開催されたG20サミットでは、2050年までに新たなプラスチックごみの海洋流出をゼロにするという目標が採択されました。

日本では、廃プラスチックの総排出量は年間約903万トン（2017年）で、使用期間が短い「包装、容器等／コンテナ類」が全体の46%となっており、国は今年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定しました。この戦略では、2030年までに、一度の使用で廃棄となるようなワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制すること、2035年までに使用済プラスチックを100%リユース、リサイクル等により有効利用することを掲げています。また、来年7月からは全ての小売店でレジ袋を有料化するとしています。

●杉並区の取組

杉並区では、プラスチックごみの削減に向けて、主に、レジ袋の削減、プラスチックの分別回収と再資源

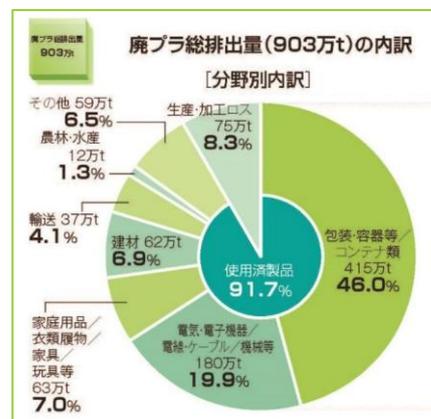
化、普及啓発活動の3点に取り組んでいます。

まず、レジ袋削減では、「レジ袋有料化等の取組の推進に関する条例」を平成20年に施行しました。この条例に基づいて、レジ袋を多量に使用している事業者に対して、レジ袋削減に向けた取組を行うよう求めています。

次に、プラスチックごみの分別回収と再資源化についてですが、区では、最終処分場の延命化と資源の有効利用を図るため、平成16年度からプラスチック製容器包装とペットボトル分別収集のモデル事業を開始し、平成20年度からは対象地域を区内全域に広げました。区が分別収集したプラスチック製容器包装、ペットボトルを資源化処理施設で選別、圧縮、梱包し、再商品化工場でリサイクルして、パレット（物流などで荷物を載せる荷台）や飲料用ボトル、衣料品などに再商品化しています。その他、製品プラスチック（歯ブラシ、ビデオテープ、ビニール製の靴・バッグなど）等は燃やして熱回収し、エネルギーとして利用するサーマルリサイクルを行っています。

普及啓発活動では、区内の高校、短大、大学、環境活動団体の方などをメンバーとするマイバッグ推進連絡会を立ち上げ、阿佐谷七夕まつりやすぎなみフェスタなどのイベントを活用して、マイバッグの普及促進のためのキャンペーン等を実施しています。また、環境活動推進センターでの講演会や講座、小中学校における環

境学習の支援、ごみ・資源の収集カレンダーの全戸配布等、さまざまな機会を捉えてプラスチックごみ削減に向けた普及啓発に努めています。



出典：「一般社団法人プラスチック循環利用協会」

◇プラスチックごみに関する質問

Q：例えば 100%の人がレジ袋を使わなくなったとすると、プラスチックごみはどのくらい減りますか。

A：レジ袋は、国内の廃プラスチックごみ全体の 2%です。しかしながら、1人1年間 300枚ほど使っていると言われていいますので、日本に居住している全ての人が、レジ袋を 3日に一回使用しなければ、日本全体で年間約 100億枚減ることになります。



Q：家庭から出るごみと事業所から出るごみの違いはなんですか。

A：家庭から出るごみは分別され、比較的きれいなものが多く、品質が良いためリサイクルが進んでいます。一方、事業所から出るごみは汚れていたり、他のものが混在していることが多いため、多くはそのまま海外に輸出していましたが、海外での受け入れがなくなってきたことが大きな課題となっています。そこで、環境省では、リサイクルに資する設備への補助を拡充するなどの取組を行っています。

Q：事業系ごみとは何ですか。

A：家庭以外のオフィス等の事業所から出されるごみです。家庭だとさっと洗ったりしてから出されるものですが、事業系の多くはそのまま捨てられます。なお、事業系ごみと廃タイヤなどの産業廃棄物とは分類が異なるものです。

Q：そもそも売り場に置く際に包装をやめて裸のまま売るとか、そういう形になればいいと思うのですが、区として働きかけることはできないのですか。

A：いろいろな商品がある中で、包装については、中身の形状が見える安心感や衛生面などの点からも考える必要があります、すべてのプラスチック包装をやめるのではなく、最小限にしていくことが大切だと考えています。企業の中では皆さんがいろいろ努力され、考えていただいているところもあり、区としても啓発していきたいと思っています。



Q：ペットボトルは、本体とキャップを別に集めていますが、一緒に集められませんか。

A：各々の素材が違うため、リサイクルの面から、キャップとラベルはプラスチックの日、本体のペットボトルはペットボトルの日、と別の日に出していただいております。また、回収してから、すべてのペットボトルのキャップやラベルを外すと多くの労力がかかることになるため、作業効率の面からも別々に出していただくように皆さまにお願いしています。



◇プラスチックごみを減らすために、皆さんの考えを発表しました



●Aさん この機会を活かして3点に心がける

今日皆さんと話をし、3点について心がけようと感じております。まず1点目が、コンビニで不要なレジ袋を貰わないようにすること、2点目は、今も家庭で分別はしていますが、今後も継続的にしっかりと行っていくこと、3点目として、周りに意識の低い人が若干見受けられるので、こうした人に今日の話伝えることなど、今回のこの機会を有効活用したいと思います。

●Bさん ペットボトルの利用を最小限に

実際にやっていることとして、ペットボトルは、2Lで買って、500ccのペットボトルに移し替えてそれを持ち歩いて使っています。逆にこの500ccのペットボトルはあまり捨てません。常に使いまわしています。再利用できるものは使います。それとレジ袋を減らすということでマイバッグを持ち歩こうと思います。

●Cさん 分別をしっかりとする

分別をしっかりするという事だけです。意識の低い人たちをどのようにしていくかは、大きな課題だと思っています。

●Dさん エコバッグを常に持つ

エコバッグをすべてのカバンや荷物の中に入れて

おきます。買い物目的でスーパー等に行くときは、当然エコバッグを持っていくのですが、日常、例えば会社に行っている間は、エコバッグを持たずにお店に入って、レジ袋をもらうというケースが多々あり、そういう点で非常に参考になるご意見をいただいたので、ぜひ実行していきたいと思っています。

●Eさん 生活での工夫をしていく

エコバッグを持ち歩くことと、カフェに水筒を持っていくと中身を入れてくれたりすることもあるので、中身は入ってなくてもなるべく水筒を持ち歩くようにしようということ、そして、よく使うものは、なるべく大容量の物を買うようにしようと思います。

●Fさん 環境やエコについて若い世代に伝える

引き続きエコバッグを利用し、スーパーやコンビニでも必要なものだけ買うことを心がけ、「レジ袋はいりません」と伝えるようにしていこうと思います。子どももいるので、今日のような話を共有して、次の世代にエコ意識や、ごみを出さないようにすることを伝えていきたいと思っています。

●Gさん 買う時の意識、リサイクル、分別の意識を大切に

あまりプラスチックに入っている物を買わないようにすることと、リサイクル、分別の意識を持つこと、そうしたやりやすいことから取り組んでいきます。



●Hさん マイバッグや水筒を常に使えるように

マイバッグの所持を忘れないために、あらかじめカバンなど一つずつにマイバッグを入れておきます。水筒を常に持ち歩くことも意識したいと思います。

●Iさん 物の素材にも興味を持つ

マイバッグをいつも忘れずに持ち歩いて、「袋は不要」と店に伝えることを、これまでに引き続いて行っていきたいと思います。また食べ物は、使い捨て容器を使っていないものなるべく選ぶようにしようと思いました。また、化繊の洋服とか、歯磨き粉に含まれているものもプラスチックだという、今まで意識

したことがないような話を聞けたので、素材などについても興味を持って確認し、納得した上で購入するようにしたいと思います。

●Jさん 環境のことを総合的に考えていく

皆さんのようにエコバッグを持ったり、大体のことはやっているのに、何かを変えていくことはないと思います。今日、実際の焼却炉を見ることができたので、分別をもう少ししっかりやるということができるのではないかと思います。そして、自分をもっと環境のことを総合的にきちんと考えていくことができるのではないかと思います。



◇最後に副区長から

行政に身を置いている立場として、個人的に極力プラスチック製の物は貰いません。やはり今の流通の面から言いますと、我々の日常生活からプラスチ



ック製品全部を排除することは不可能だと思いますが、自分たちの生活をシンプルにして、極力貰わなくてい

いものは貰わないように、使わなくていいプラスチックは使わないように、と考えています。とは言いながら、行政のイベントなどに行っても、プラスチック製品がいろいろ配られていたり、我々も反省するところがあります。やはり、今はとても便利な世の中となり、衛生的な配慮などからプラスチック製の梱包や包装の必要性もあるのですが、もう少し昔の日本の時代を思い出しながら、シンプルな生活をそれぞれが心がけていけたらと思いました。

本日は皆さん、ありがとうございました。

◇今日のすぎなミーティングを振り返って

○参加された皆さんがとても意識が高く、プラスチックごみを減らすことに積極的であることがわかり、改めて良い区だなと実感しました。

○より明るい未来を子どもたちに残せるようにこれからも考え、行動していきたいと思います。

○今までも意識してごみの分別をしたり、物を買ったりしていましたが、他の方の話や説明をお聞きして、もっと意識を高く持つ必要があると感じました。

○こうした場で、皆さんと暮らしに密着するごみの話ができただことはとても良かったと思います。

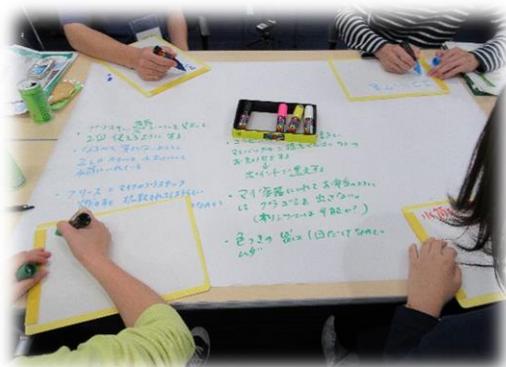
○リサイクルと一言と言っても色々な方法があることを知りました。

○ゴミ処理システムの流れやプラスチックごみがなぜ問題なのか、今回初めて知ったことも多く、改めて環境問題の難しさを感じました。





今回の懇談会は 18 歳から 75 歳までの無作為抽出の区民 2,000 名にご案内し、参加希望者の中から 10 名の方に参加いただきました。



「すぎなミーティング」の様をダイジェスト動画でご覧になれます。



編集後記 区政相談課

今回は、区長の急な欠席により、参加者の皆さまには大変ご迷惑をおかけしましたが、会は和やかに進み、活発なご発言もたくさんいただきました。ありがとうございました。この報告書は副区長の話や出席者の方のご意見等を抜粋して編集させていただきました。いただいたご意見を、今後の取組に活かしてまいります。

～すぎなミーティング報告書～ 令和2年3月 編集・発行 総務部区政相談課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号
電話3312-2111